

パスト・ガバナー

横山 守雄

(大阪中央RC)



1947年1月27日はロータリーの創始者ポール・ハリスの命日です。1989年10-11月のR I 理事会において、毎年この1月27日を含む1週間を、物故ロータリアンの冥福を祈り、生前の貢献を記念する「追悼記念週間」と指定しました。

ロータリーは生誕後105年の歴史を経て、今日では200以上の国々や地域で、123万人の会員を擁する一大組織に発展しました。ロータリーの創始者ポール・ハリスはもとより、職業人の集まりであるロータリーに崇高な職業奉仕の理念を注がれたアーサー・シェルドン、ロータリー財団の基礎を築かれたアーサー・クラフ、そのほか幾多のシニアリーダーや先輩ロータリアンたちの積年の努力があって、今日のロータリーがあることを、この追悼記念週間に私たちは改めて思い起こし、故人を偲ぶ機会にしたいものです。

また同時に、追悼記念週間にあたり、クラブの会員としては自分達のクラブでクラブ活動やクラブ発展のために尽くされた物故会員に思いを馳せなければなりません。近年、特に若い世代の方は、ロータリーは会員1人1人が対等な関係だとの考えで、先輩諸兄に対する接し方が変わってきていると言われております。しかしロータリーは先達を敬い、尊重することをしっかりと教えてくれる場でもあります。

ロータリーは長い歴史の中で、意見の違いや紛争が多々ありました。クラブ内においても論争は絶えずあります。ポール・ハリスはロータリアンが最も学ばなければならないことの一つとして「寛容の精神」をあげています。それは私たちの社会生活においても同じことが言えるかと思えます。

会員の皆様は、身近においては、自分達のロータリークラブで、それぞれの業界で長年キャリアを積んでこられた物故会員や先輩諸兄から、いろいろな職業訓や人生訓を学んでこられたことと存じます。この記念週間が、自分自身をロータリークラブの会員として迎えてもらい、導いてくださった先輩ロータリアンに対して、感謝の念を捧げる機会にもなることを願っております。